

第103回全国高等学校野球選手権大会（支部・南北大会）
新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

朝日新聞北海道支社
北海道高等学校野球連盟

1. 基本方針

以下を基本として新型コロナウイルス感染防止対策を講じる。

- (1) 朝日新聞高校野球総合センター、日本高等学校野球連盟が委嘱した専門医からの知見、助言
- (2) 政府、行政からの方針、対応
- (3) 他団体の示す各種ガイドライン、対応マニュアル
- (4) 昨年来、開催してきた各種大会での経験、実績、上記(1)から(4)を踏まえて以下①から⑦の項目を実践する。
 - ① 3つの密（密閉、密集、密接）を徹底的に回避する。
 - ② 大会関係者、チーム関係者に対して毎日の検温および体調チェックを実施する。
 - ③ こまめに手洗い、手指消毒を行い、咳エチケットを徹底する。
 - ④ 本ガイドラインにおいて、特段の定めがない限りマスク着用を行う。
 - ⑤ 大会関係者、チーム関係者は2週間前から行動歴を記入し、感染者が発生した場合に備える。
 - ⑥ 大会本部は事前に大会開催計画、方針について、行政や当該衛生部局とあらかじめ協議し、不測の事態に備える。
 - ⑦ 関係者（大会関係者、参加校関係者、観戦者）から感染の有無について出来る限り情報を収集し、効果について検証するよう努める。

2. 観客の入場について

観客の入場について、開催地の感染状況を踏まえ、無観客試合とするか有観客試合とするかを選択する。大会開催にあたっては、本ガイドラインのほか、行政が定めるイベント開催に関する事項を遵守する。観客収容の上限は行政が定める上限人数と球場収容率の定めによるものとする。大会期間中に行政の指針が変更された場合、上限人数を変更することも可とする。

【無観客試合】無料試合として、一般の観戦者は入場不可とする。

	スタンド利用	学校関係者の入場
A	×	試合でベンチ入りする参加校関係者のみ
B	○	ベンチ入り以外部員のみ入場可
C	○	ベンチ入り以外部員と保護者等入場可

【有観客試合】有料試合

	スタンド利用	学校関係者の入場	一般観戦者
X	○	ベンチ入り以外部員、保護者入場可	×
Y	○	ベンチ入り以外部員、保護者、OB会、後援会、一般生徒可	×
Z	○	ベンチ入り以外部員、保護者、OB会、後援会、一般生徒可	○

3. 主催者としての対策

<事前>

- (1) 大会関連行事（運営委員会など各種会議）はリモートでの実施も検討し対策を講じる。
- (2) 抽選会、開会式は全校、全員での参加を求めるものではなく、代表参加やリモートなどを検討する。なお、全校、全員参加とする場合は3つの密を回避して実施する。

<大会中 ～全般～>

- (1) 球場内、外に消毒液を設置し、手指消毒を励行する。
- (2) ダッグアウト周辺およびトイレはこまめに消毒する。

<大会中 ～観客へ向けてのアナウンス、ビジョン表示～>

- (1) 大声を出さない、マスク着用、ソーシャルディスタンスを取るなど新型コロナウイルス感染防止対策を促すアナウンス、ビジョン表示を行う。
- (2) 観戦終了後に自分の座席位置を確認できるよう入場券に自身の座席番号をメモすることやスマートフォンで座席位置を撮影することを促し、最低14日間は自身の座席番号が確認できるようアナウンスする。
- (3) 接触確認アプリ（COCOA）などのインストール、活用を促す。
- (4) 観客が感染者となった場合に備え、大会中は大会本部、大会後は北海道高等学校野球連盟事務局あるいは朝日新聞北海道支社まで電話連絡を入れてもらうよう促す。

4. 参加校の対策

<移動>

- (1) 試合会場へ移動の際はマスクを着用し、会話を控え、手指消毒を励行する。
- (2) バス移動する場合は適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
- (3) 移動中や試合会場で食事を行う場合は、人と人との間隔（できるだけ2m 最低1m）を空け、対面になることを避ける。
- (4) 宿泊は極力控えることとし、やむを得ず宿泊する場合も3密回避やマスク着用など感染対策を講じる。その場合、不要不急の外出は行わず、外部との接触は極力避ける。

<球場入場時>

- (1) チーム関係者は起床後検温、体調チェックを行い、その結果を責任教師は体調管理チェック表に記載したうえ、球場到着後、大会役員へ提出する。起床後あるいは球場入場時に37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、呼吸困難など）が発生した場合は、球場への来場、入場することを禁止し速やかに医療機関を受診する。その場合、責任教師は速やかに大会本部まで連絡する。

<試合に関して>

- (1) 球場内には消毒液を設置してあるので、適宜手指消毒を励行する。
- (2) ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務付けない。ただ、球場外でウォーミングアップをする場合、観客近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。
- (3) 試合開始前、終了時に整列する際、選手は手を腰に当てて、隣の選手とぶつからない程度の距離を空けて挨拶を行う。試合終了後の校歌斉唱時も同様とする。なお、相手チームと握手などは行わないこととする。
- (4) 円陣を組む時など、密集にならないよう注意し、一定の距離を保つ。また試合中、マウンド上で集合する際はグラブを口に当てることとする。
- (5) 試合中、素手によるハイタッチや握手を控えることとし、自身の目、鼻、口なども触らないようにする。
- (6) ダッグアウト内では密集にならないよう、出来る限り人と人との距離を一定間隔に保ち、ペットボトルやコップなどの共用は避ける。
- (7) 責任教師、監督、記録員は熱中症対策を十分に講じたうえで常にマスクを着用する。控え選手はベンチ内ではマスクを着用する。ベンチ入り前、試合終了後は全選手マスクを着用する。
- (8) チームの共用用具として考えられるもの（バット、ヘルメットなど）に関しては、こまめに消毒を励行する。

<試合後>

- (1) 大声での校歌斉唱は控える。
- (2) 次の試合の出場チームとの入れ替え時における接触を避けるため、速やかにダッグアウトを空ける。
- (3) 大会役員の誘導により定められた動線にしたがい必要に応じて取材対応を行う。
- (4) 取材終了後、速やかに帰校あるいは帰宅する。

5. 大会関係者（役員、運営委員、審判委員、スタッフ）

<移動>

- (1) 移動の際はマスクを着用する。公共交通機関を使用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。

<球場入場時、球場内>

- (1) 起床後検温、体調確認を行う。その際、37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、呼吸困難など）が発生した場合、来場は禁止する。
- (2) 球場内、外に設置する消毒液でこまめに手指消毒を励行する。
- (3) 球場内は常にマスクを着用する。
- (4) 球場内で食事を行う場合は、人と人との間隔（できるだけ2m、最低でも1m）を空け、対面になることを避ける。

<審判委員>

- (1) 球審は試合中、マスク着用かマスクシールドを使用することとする。なお、塁審のマスク着用は義務付けない。

6. 一般入場者、学校応援者について

【一般入場者、学校応援者共通】

<入場制限>

次に該当する方の球場への入場を禁止する。

- (1) 球場入場時、非接触型検温器で検温を実施し、37.5℃以上の発熱が認められた方。
- (2) マスク非着用の方
- (3) 過去1週間以内から来場時まで下記①から③のいずれかを含む体調不良のある方。
 - ① 強い倦怠感
 - ② 喉、咽頭痛、息苦しさ等
 - ③ 味覚・嗅覚異常などの異変がある
- (4) PCR検査陽性歴があり、次の①から④のいずれかに該当する方
 - ① 有症状者では、発症日から10日未満、なおかつ、症状軽快後72時間以内
 - ② 症状軽快後24時間経過から24時間以上の間隔を空け2回のPCR検査で陰性を確認できていない
 - ③ 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満
 - ④ 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあけ2回のPCR検査陰性を確認できていない
- (5) 濃厚接触者として自宅待機中の方
- (6) 家族が濃厚接触者として自宅療養中の方
- (7) 家族に上記(3)の体調不良者がある方
- (8) 海外から帰国（日本に入国）して14日以内の方

<球場入場時>

- (1) 入場する際は接触確認アプリ（COCOAや行政のアプリなど）のインストールを促す。
- (2) 入場者に氏名、連絡先など記載を求めることが望ましい。

<観戦中>

- (1) 大声を出して声援を送る、合唱することは控える。
- (2) ハイタッチや得点時に座席の上に立つ、1ヶ所に集まる行為は控える。
- (3) マスクの着用、咳エチケットを遵守し、球場内設置の消毒液で手指消毒を励行する。
- (4) ソーシャルディスタンス（最低でも隣の観客との間隔を1席空ける）をとって観戦する。
- (5) 座席番号の記録徹底の呼びかけを行う。有観客試合で開催することにしても、自由席が想定されるため、ゾーニング（ネット裏、1塁側、3塁側、外野などローピング）を行うことが望ましく、観戦者には席や座席番号をスマートフォン等でカメラ撮影し記録することを促す。あるいは、入場券に座席番号を記入し、自分の座席位置を確認できるよう、入場券を最低14日間保管するよう促す。
- (6) 着席後、球場内は目的地（トイレ、売店など）を決めて移動することとし、球場内の不必要な回遊を避けるよう求める。

【学校応援者】

<人数>

- (1) 引率教諭は当日、体調管理チェック表と応援団入場願「様式 33」もしくは団体入場願「様式 34」を入場前に大会本部へ提出する。

<移動>

- (1) 来場の際、移動中はマスクを着用し、手指消毒を励行する。
- (2) バスの移動では適宜換気を行い、人と人との間隔を空けて座ることとする。公共交通機関の場合は混み合う時間帯をなるべく避けるよう注意する。
- (3) 移動時や球場内、外で食事を行う場合は、人と人との間隔（できるだけ2m、最低1m）を空け、対面になることを避ける。

<観戦中>

- (1) ブラスバンドの入場に関しては、別に定める「ブラスバンド入場に関するガイドライン」を遵守することを条件とし、感染状況に応じて各支部長(学校長)で判断することとする。
- (2) 応援に関しては、大声を発する応援は行わず、拍手、声援での応援を基本とする。なお、球場内へメガホンの持ち込みは可能であるが使用する際は声を出さず叩くのみとする。また、太鼓の持ち込みは1個までとする。
応援リーダー、チアリーダーについても入場は可とし、ソーシャルディスタンスをとることや大声を発しないなど、本ガイドラインを遵守する。

7. 感染者が発生した場合の対応

【大会関係者、チーム関係者】

- (1) 大会前、大会中に大会関係者、チーム関係者から感染者や濃厚接触者が発生した場合、別紙の「大会前、大会中に関係者から感染者が発生した時の対応について」を参考に対応する。

【一般入場者、学校応援者】

- (1) 球場で観戦後、14日以内に感染者となった場合、観客から大会中であれば大会本部、大会後であれば北海道高校野球連盟事務局、朝日新聞北海道支社まで連絡をしてもらう。
- (2) 主催者は試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従い、ホームページで感染者発生の情報発信や周辺座席で観戦した観客への連絡など然るべき措置をとる。

8. 参加校の大会参加可否の判断基準

- (1) 大会中、参加校から感染者ならびに感染の疑われる者（濃厚接触者）が判明した場合、参加校責任教師から情報収集（感染者数、行動歴、保健所の指示内容）に努める。
- (2) 当該校は感染者、感染が疑われる者の人数や行動歴、保健所の指示を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- (3) 主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況（部内での集団感染や集団感染が予見されるなど）によっては出場を差し止めることもある。
- (4) 参加校から感染者や感染が疑われる者が発生した場合、大会日程を繰り下げることで当該校の大会出場が可能な場合は運営委員会で検討することもある。その場合、同一回戦の日程内で日程変更を検討することを原則とする。
- (5) 18人の登録選手から感染者や感染が疑われる者が発生した場合、大会前であれば登録外の選手との入れ替えを認める。ただし、回復しても元に戻すことはできない。また、

大会中であれば当該選手のベンチ入りを認めない。登録外の選手との入れ替えも認められない。当該選手が隔離期間の終了などが確認できれば、次戦からベンチ入りすることは差し支えない。

9. 支部大会終了から南・北北海道大会までおよび南・北北海道大会終了から全国高等学校野球選手権大会（以下、「全国大会」といいます）までに代表校から感染者、感染が疑われる者が発生した際の対応
 - (1) 支部大会終了後、南・北北海道大会までおよび地方大会終了後、全国大会までに代表校から感染者、感染が疑われる者が発生した場合は可能な限り選手変更などで対応する。万が一、代表校関係者から感染者、感染が疑われる者が発生し、南・北北海道大会および全国大会にチームとして出場できなくなった場合は、代表校の差し替えなどはしない。
10. 地方大会終了後の健康観察
 - (1) 大会関係者、参加校チーム関係者は地方大会を終えた後、14 日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は速やかに当該都道府県高校野球連盟に書面にて報告する。

以上